● 妊孕性温存療法（にんようせいおんぞんりょうほう）について

「妊孕性（にんようせい)」とは妊娠するために必要な能力のことをいい、女性にも男性にも関わることです。妊娠するためには卵子と精子が必要となり、卵巣、子宮、精巣などが重要な役割を果たしています。がん等の治療では、手術や抗がん剤治療、放射線治療などによる影響で、妊孕性が低下したり失われることがあります。

「妊孕性温存療法（にんようせいおんぞんりょうほう)」とは、将来自分の子どもを授かる可能性を残すために、がん治療の前に卵子や精子、受精卵、卵巣組織の凍結保存を行う治療のことです。また、妊孕性温存療法により凍結保存した卵子や精子、受精卵、卵巣組織を用いてがん治療後に妊娠を補助するために実施される治療を「温存後生殖補助医療（おんぞんごせいしょくほじょいりょう」と呼んでいます。

妊孕性温存療法には高い専門性が必要です。当院は妊孕性温存療法を専門としている施設と連携していますので、最善の治療ができる専門施設をご紹介します。

連携医療機関：奈良県立医科大学附属病院、近畿大学奈良病院など